



【画面左の青年が1袋20バーツ（約60円）のエサを売る】

タイといえば象である。

その象が、目の前を歩いているのではないか。

「これはラッキー」とばかりにシャッターを切りまくった。

エサを売っての商売である。

象を引く青年から、5袋のカットフルーツを買った。

これを与える度に、鼻を振り喜び、そして、次のおねだりだ。

青年が声を発すると、カメラに向かって鼻を高く上げてポーズまでとってくれた。

この図体では、5袋なんて、あつと言う間だ。

そして、通りを横切り、客を求めて別の場所に行ってしまった。

このあと、タイの友人から、聞いた。

本来、田舎にいるべき象が、今は仕事の需要がなくなり、こうして出稼ぎに出ている。

都会に出た象も、動物愛護の観点から、深刻な問題があり、エサを買わないように、との運動もある。

そんなことは知らなかった私。

写真に写るつぶらな瞳に、どこからも追われている象の悲哀が重なる。